

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

美浜町地域公共交通会議

平成21年7月27日設置

令和2年7月28日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
各地域における対話やアンケートにより住民ニーズの把握・分析を行い、広域バス路線や鉄道とコミュニティバスの接続を強化し、学生や高齢者の利便性を高めるための運行ダイヤ改正等に取り組まれたことを評価します。	コミュニティバスご利用案内（時刻表・バス停マップ等）を各家庭に配布し、利用促進を図った。アンケート結果を踏まえたダイヤ改正を実施した結果、ＪＲ小浜線や路線バスとの接続強化が図られ、町外からの帰宅利用者の増加に繋がった。	令和４年度に住民ニーズ調査の実施を予定しており利用者の更なる利便性向上に向けた計画を策定していく。
改正ダイヤの継続的な周知及び利用者の要望把握を継続し必要に応じた対策を行うことで、利用者数の増加につなげられることを期待します。北陸新幹線開業を見据えた公共交通の検討を近隣市町と連携を取りつつ行い、利用者の増加につなげられることを期待します。公共交通における新型コロナウイルス対策を様々なツールを用いて発信することにより、公共交通の安全性を周知され、利用促進につなげられることを期待します。	改正ダイヤ及び新型コロナウイルス感染症対策について町のホームページで周知を図った。また北陸新幹線敦賀駅開業を見据え、ＪＲ美浜駅周辺にまちづくりの核となる地域づくり拠点化施設とともに、駅前広場を拠点とした新たな公共交通体系のあり方等についての検討を進めている。	令和４年度に「美浜町地域公共交通計画」の策定を予定しており、北陸新幹線敦賀駅開業を見据えた新たな公共交通体系のあり方についての調査検討を進め、利用者の増加とＰＲを図っていく。

(1) 美浜町の特性

- JR小浜線や路線バスを補完するものとして、コミュニティバスを3路線運行し、利用者の利便性向上を図るため、朝、夕の通勤、通学、通院の利用者が多い時間帯に対応する定期便と日中の利用の少ない時間帯を予約便として運行している。

- 丹生線は往復5回計10回の運行、日向線と新庄線はいずれも往路5回、復路7回、合計12回の運行で、平日・休日とも同じダイヤで運行している。

定時定路線便+予約便(デマンド交通)に再構築(平成27年4月~)

(2) 嶺南地域公共交通網形成計画(令和2年3月策定)

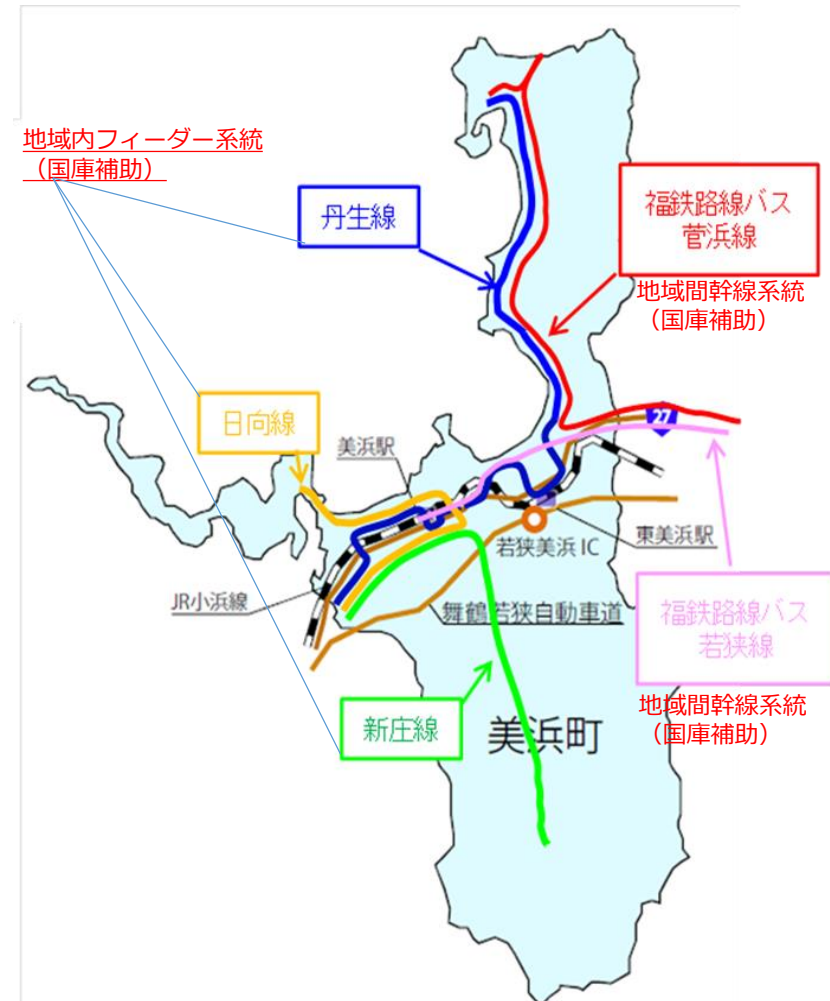
計画期間: 令和2年度~6年度

■ 基本目標

- ① 将来にわたって地域の移動手段として持続可能な交通ネットワークの構築
- ② 北陸新幹線敦賀開業効果を嶺南地域全体に波及させるための利便性の高い二次交通の整備

- 公共交通ネットワークの維持・最適化を図る。

■ 美浜町公共交通ネットワーク概要図



運行内容の主な改正点

■ダイヤ改正

- ・ J R小浜線、福鉄バスへの接続に配慮し、全路線のダイヤを改正（東美浜駅からの接続にも配慮）
- ・ 朝時間帯の利便性向上のため、目的地までの所要時間の短縮

■バス停の位置変更、待合所の新設

- ・ 県道33号佐田竹波敦賀線の開通に伴い、丹生線の菅浜バス停及び北田バスの位置を変更するとともに、待合所を新設

対象路線		バス停名	待合所設置箇所
①	丹生線	菅浜バス停(新)	県道沿い 菅浜地係
②		北田バス停	県道沿い 北田地係

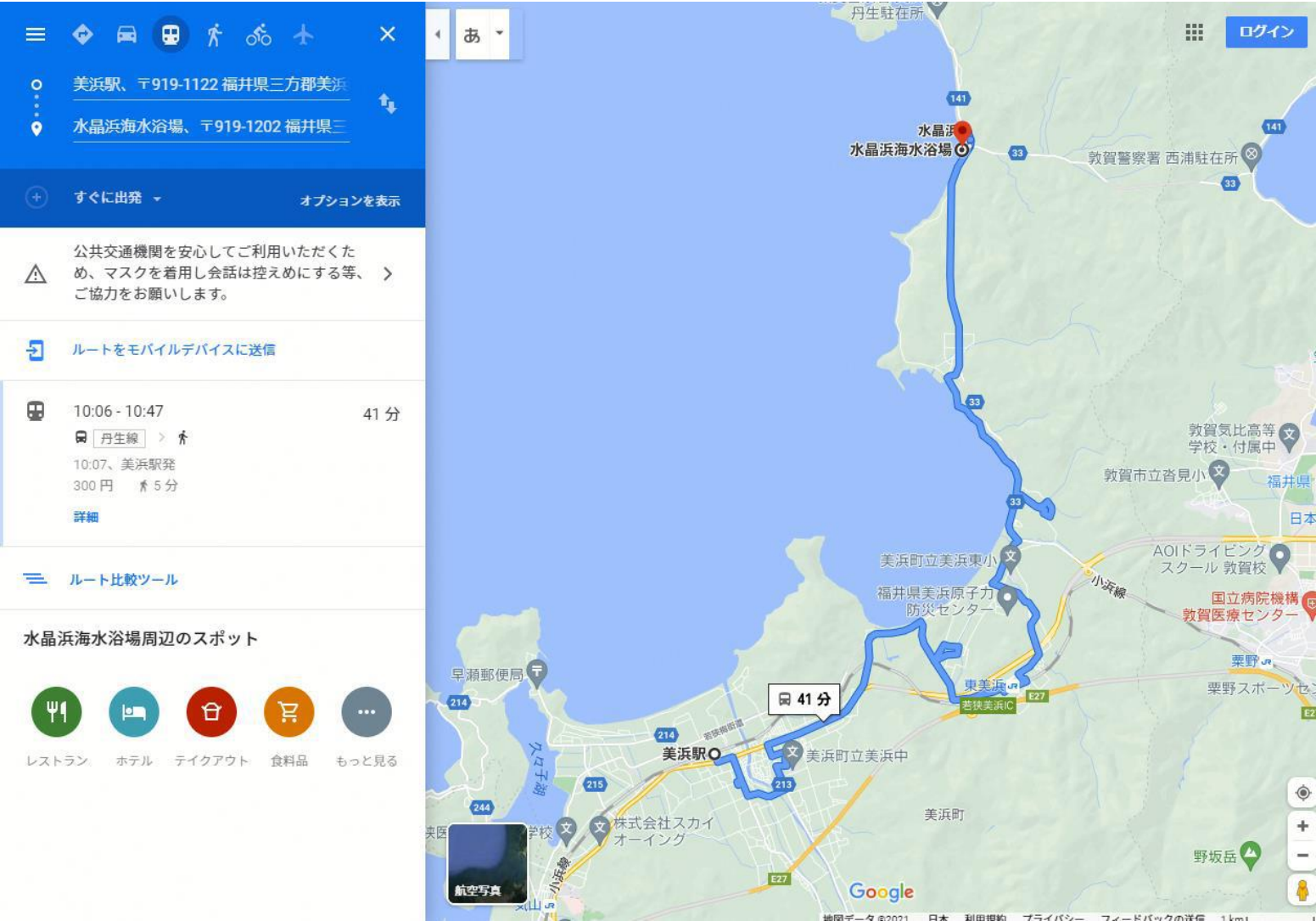


■時間の緩和

変更前	変更後
当日予約は各便始発の1時間30分前まで	当日予約は各便始発の1時間前まで

利用促進策

■Googleマップでのコミュニティバスの検索サービス開始
(令和3年4月利用開始)



■ 目標値の算出方法

- ・ 美浜町生活交通確保維持改善計画（令和2年11月）よりフィーダー系統（予約便）の利用者目標は3,700人と設定

※人口減少、学生の減少などの影響はあるが、コロナ禍でも実施可能な利用促進策を着実に行うことにより、利用者の維持等をしていくことを目標に設定

■ 自己評価

- ・ 第2回美浜町地域公共交通会議（書面協議）
令和3年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価等について
対象期間：令和2年10月～令和3年9月

生活交通確保維持計画（コミュニティバス 予約便）における評価

■ 定量的な指標として「利用者数」を目標値として設定

路線名	R 3 目標値 R 2.1 0 ~ R 3.9 (年間利用者数)	R 3 実績値 R 2.1 0 ~ R 3.9 (年間利用者数)	達成状況	達成率
丹生線	1,400人	732人	未達成	52.2%
日向線	1,400人	937人	未達成	66.9%
新庄線	900人	1,008人	達成	112%

■ 目標の達成状況の考察

2 路線において新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少

- ・ 丹生線：外出自粛要請による学生、高齢者、観光客の利用の減少
- ・ 日向線：固定客であった高齢者の外出する機会の減少

1 路線においてダイヤ改正により利用者の増加

- ・ 新庄線：ダイヤ改正により J R、路線バスへの接続本数を増やした結果、町外からの帰宅利用者が増加

■ 今後の方針

コロナ禍でも実施可能な利用促進策を着実に実施する。

自己評価から得られた課題

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、各路線で大幅な利用減となった。コミュニティバスの新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりとPRし、利用促進を図る必要がある。
- ・コロナ禍で新ダイヤの評価をすることは難しい状況であるが、月別利用者数の推移の分析やインタビュー調査を行い、ダイヤ改正等を随時検討していく必要がある。
- ・高校生の通学利用者が減少していく中で、全体の利用者が減少しないように利用促進策を継続的にしていく必要がある。



対応方針

- ・公共交通会議にて各路線の利用者数の報告を行い、課題等の共有や利用促進に係る協議を図っていく。
- ・周知広報活動や公共交通経路検索サービスなどを継続的に実施し、利用者の増加とPRを図っていく。
- ・町の優先施策として、JR美浜駅周辺の拠点化施設の整備や北陸新幹線敦賀開業を見据え、利用者の利便性向上のための公共交通ネットワークのあり方を再検討していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月14日

協議会名: 美浜町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
美浜自動車株式会社	系統名:丹生線 運行区間:丹生～美方病院	コミュニティバスご利用案内(時刻表・バス停マップ等)を各家庭に配布し、利用促進を図った。また、公共交通における新型コロナウイルス対策を周知した。	B バスダイヤ改正周知及び、新型コロナウイルス感染症対策についてホームページにて周知を図った。	B 目標人数1,400人に対し732人であった。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、学生の利用が大幅に減少したことや外出自粛要請による観光客の利用の減によるものと思われる。	主に夏の海水浴客の利用が大きく影響しているため、今後も観光協会と連携し対応を図っていく。また、利用者の利便性向上を見据えキャッシュレス対応導入の検討を進める。
美浜自動車株式会社	系統名:日向線 運行区間:日向～美方病院	コミュニティバスご利用案内(時刻表・バス停マップ等)を各家庭に配布し、利用促進を図った。また、公共交通における新型コロナウイルス対策を周知した。	B バスダイヤ改正周知及び、新型コロナウイルス感染症対策についてホームページにて周知を図った。	B 目標人数1,400人に対し937人であった。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、学生や買い物等に行く高齢者の利用減によるものと思われる。	病院や買い物客、美浜駅の利用者に公共交通を利用していただけのように周知していく。また利用者の利便性向上を見据えキャッシュレス対応導入の検討を進める。
美浜自動車株式会社	系統名:新庄線 運行区間:新庄～美方病院	コミュニティバスご利用案内(時刻表・バス停マップ等)を各家庭に配布し、利用促進を図った。また、公共交通における新型コロナウイルス対策を周知した。	B バスダイヤ改正周知及び、新型コロナウイルス感染症対策についてホームページにて周知を図った。	A 目標人数900人に対し1,008人であった。ダイヤ改正によりJR、路線バスへの接続本数を増やした結果、町外からの帰宅利用者の増加に繋がった。	老人クラブ連合会と連携し啓発活動を実施し、利用促進に繋げていく。また利用者の利便性向上を見据えキャッシュレス対応導入の検討を進める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月14日

協議会名:	美浜町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	平成23年度に「美浜町都市計画マスタープラン」を策定し、公共交通の強化・充実に取り組んでいる。住民の生活を支える貴重な交通手段として、JR小浜線とコミュニティバスの利便性の向上を図ることとし、JR美浜駅の環境整備を実施しアクセス性を高めるとともに、コミュニティバスのサービス水準の維持に努めている。 令和4年度中に「美浜町地域公共交通計画」の策定を予定しており、JR小浜線や路線バスの乗客減少に歯止めをかけるため、利便性の高い公共交通の充実を図り、人々が集い交流する機会を広げ、各集落をつなぐ手段としてコミュニティバスの利活用を促進していく。また、今後は、2024年春の北陸新幹線敦賀開業に向け、県、各市町、事業者と連携しながら、JR小浜線のさらなる利用促進を図っていく。